

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料 ～Vol.14 エチオピア視察報告～

2013 年 2 月発行

TFT プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃から TABLE FOR TWO プログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にお届けするための補足資料です。貴団体内でのコミュニケーションや PR にご活用いただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒宜しくお願い致します。

<補足資料 Vol.14 をお送りするにあたって>

2012 年 12 月に TFT 代表・小暮が、エチオピア・ティグライ州 Koraro 地区の小学校を訪問してまいりました。今回の補足資料では、訪問時に見聞きしたエチオピアの概況や給食プログラムの実施状況、そしてコミュニティの取り組みについてお伝えいたします。

<日本での TFT プログラムの実施状況>

計 546 の団体で実施中(2013 年 2 月 15 日現在)

内訳	団体数	比率
1. 企業	265	49%
2. 学校	100	18%
3. 店舗・小売食品	105	19%
4. 官公庁・公的機関	23	4%
5. 病院	15	3%
6. その他	38	7%
合計	546	100%

<これまでに寄せられたご寄付> *TFT 事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

- 2007 年: 5 万 6,737 食分(約 260 人の子どもの 1 年分の学校給食)
 - 2008 年: 59 万 7,652 食分(約 2,720 人の子どもの 1 年分の学校給食)
 - 2009 年: 212 万 2,627 食分 (約 9,650 人の子どもの 1 年分の学校給食)
 - 2010 年: 381 万 5,507 食分(約 1 万 7,340 人の子どもの 1 年分の学校給食)
 - 2011 年: 579 万 8,653 食分(約 2 万 6,360 人の子どもの 1 年分の学校給食)
 - 2012 年: 593 万 2,197 食分(約 2 万 6,970 人の子どもの 1 年分の学校給食)
 - 2013 年: 67 万 4,233 食分(約 3,070 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- ⇒合計 1,899 万 7,606 食分

Democratic Republic of Ethiopia エチオピア連邦民主共和国



- 首都: アディスアベバ
- 面積: 109.7 平方キロメートル
- 人口: 8,295 万人(2010 年時点)
- 民族: オモロ族、アムハラ族、ティグライ族等 80 の民族
- 言語: 主要言語は英語とアムハラ語

エチオピアの現状

過去 10 年間エチオピアの GDP 成長率は平均 11%と、目覚ましい経済発展を遂げています。首都アディスアベバには多くのビルや商業施設が建ち並び、行きかう車が渋滞することもしばしばです。首都には各国大使館のみならず、アフリカ連合(AU)本部や他の国際機関・地域機関が置かれ、アフリカ大陸の政治の中心地となっています。その一方で、農村地域ははまだ開発が進んでおらず、人々は農業を生業とし伝統的な生活を送っています。エチオピア国民の約 40%が貧困ライン以下の生活をしていると言われてしていますが、その多くが農村地域に住む人々です。

農業



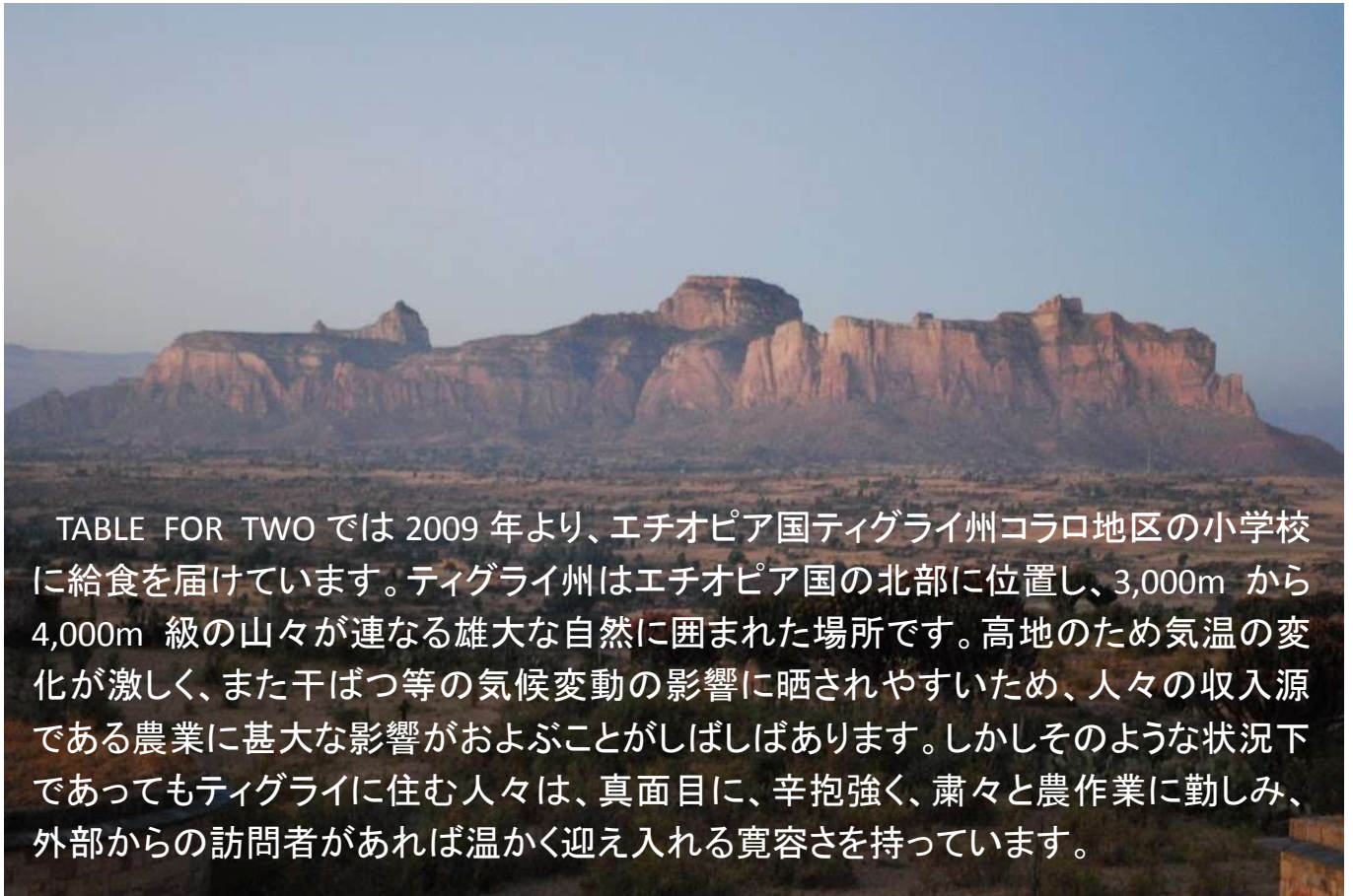
エチオピアは国民の約 80%が農業に従事しており、GDP の 50%が農業関連分野から生じています。エチオピアの農業を支える担い手の大部分は、貧困状況から抜け出せない小規模農民です。干ばつ等の気候不順や、改良農業技術などに関する知識が乏しいことにより、農業生産性は低く、家族が生活していくのに必要な量さえ賄えない農家が多くいます。

教育

エチオピアの中等教育進学率は 30%台前半と低い水準にとどまっています。その理由として挙げられるのが、初等教育課程での中退率の高さです。いかに生徒たちのやる気を引き出し、親の理解を得ながら初等教育を修了させるかが課題となっています。



エチオピア民主共和国 ティグライ州 コラロ



コラロ地区での学校給食プログラム



小学校ではトウモロコシ大豆ブレンド粉 (CSB: Corn Soya Blend) に、お湯と塩、クッキングオイルを混ぜ合わせたスープをかけ、かき混ぜたものが給食として提供されています。CSB は栄養の観点で優れた素材ですが、子どもたちに話を聞くと、地元で穫れた大豆やひよこ豆、フルーツも大好きなようです。



子どもたちに好きなフルーツを聞いたところ、高学年の生徒はマンゴーを、低学年の生徒はオレンジを選びました。理由を聞いたところ、まだ幼い子どもたちは、マンゴーは甘くて美味しいので大好きですが、皮を剥くのが大変で、手がベタベタするのが嫌だから選ばないということのようです。

給食も勉強も大好きな子どもたち

Koraro 地区では、給食導入以降、中退率が低下しています。今回訪問した4つの小学校では、2012年の中退者はゼロとのことでした。これらの小学校では、午前と午後の二部制となっている授業の始めに、子どもたちに給食を提供しています。大半の生徒が朝食や昼食をとらずに学校に登校してくるため、子どもたちは早く給食が食べたいと遅刻せずに毎日学校に来ます。そして給食を食べる



ことで、集中力が高まり、先生の話をしっかり聞くようになったそうです。給食をきっかけに学ぶことの楽しさを実感した子どもたちは、小学校を中退することなく、中学校への進学を目指すようになりました。給食プログラムを導入する前と後では、中学校への進学者数が約2倍に増加しています。

TFT & 学校給食プログラムへの感謝のメッセージ



訪問中、PTA 会長としてコミュニティの発展に貢献している農家の方に会いました。彼は現地ではなかなか食べられない、穫れたての蜂蜜をたっぷりかけたパンと、収穫したばかりのひよこ豆を用意して歓迎してくれました。学校給食プログラムが始まる前は、近隣の家々を毎日訪問しては、子どもたちを学校に出してほしいと説得に回っていたそうです。「今では、そんなことしなくても子どもたちが自ら進んで学校に行ってくれるから有り難いことだよ」と給食プログラムへの感謝の言葉をいただきました。



また、ある小学校を訪問した際、教室の一室をコーヒーセレモニー用に飾り付けをし、コーヒーとポップコーンで最高のもてなしをしてくれました。教室の壁には TFT への感謝を記した手作りのポスターが貼られていました。